



# 第1章 計画の概要

# 1 策定趣旨

- 令和5年度（2023年度）から基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」がスタートします。同計画は、市民・企業・行政など、全てのまちづくりの主体が明確なビジョンを共有して行動するために、多くの声をもとに描いた「未来の八王子」の設計図であり、「みんなで目指す2040年の姿」とそれを実現するための基本的な施策展開等を示しています。
- 2040年を展望すると、人口減少、少子高齢化、地球温暖化など、厳しい社会環境の変化が見込まれ、行政経営においても新たな局面を迎えることとなります。これまで、人口増や経済成長に伴い増加した歳入を財源に、多様化・複雑化する行政需要に対応してきました。しかし、本格的な人口減少社会の到来や人口構造の変化に伴い、財政規模の縮小や働き手の減少などが見込まれ、新たな社会課題や行政需要に対応するためには、これまで以上に効果・効率的な行財政運営が不可欠となります。
- 「八王子未来デザイン2040」には、変わり続けていく多様なニーズに寄り添い、しなやかに対応するとともに、行財政運営の持続可能性を追求し、未来への責任を果たすための5つの「経営方針」を掲げ、多様な主体による価値創造や、限りある経営資源の効果・効率的な配分、将来世代に負担を残さない健全な財政運営などを通じて、市民の信頼に答え続ける市政運営を実践することとしています。
- 「八王子市経営計画」は、持続可能な行財政運営のもと「八王子未来デザイン2040」の実現に向けた具体的取組を示す行動計画として策定したものです。本計画に基づき「八王子未来デザイン2040」に掲げる施策の効果的な展開と、その基盤となる中長期的な視点による経営マネジメントに一体的に取り組んでいきます。

# 1 策定趣旨

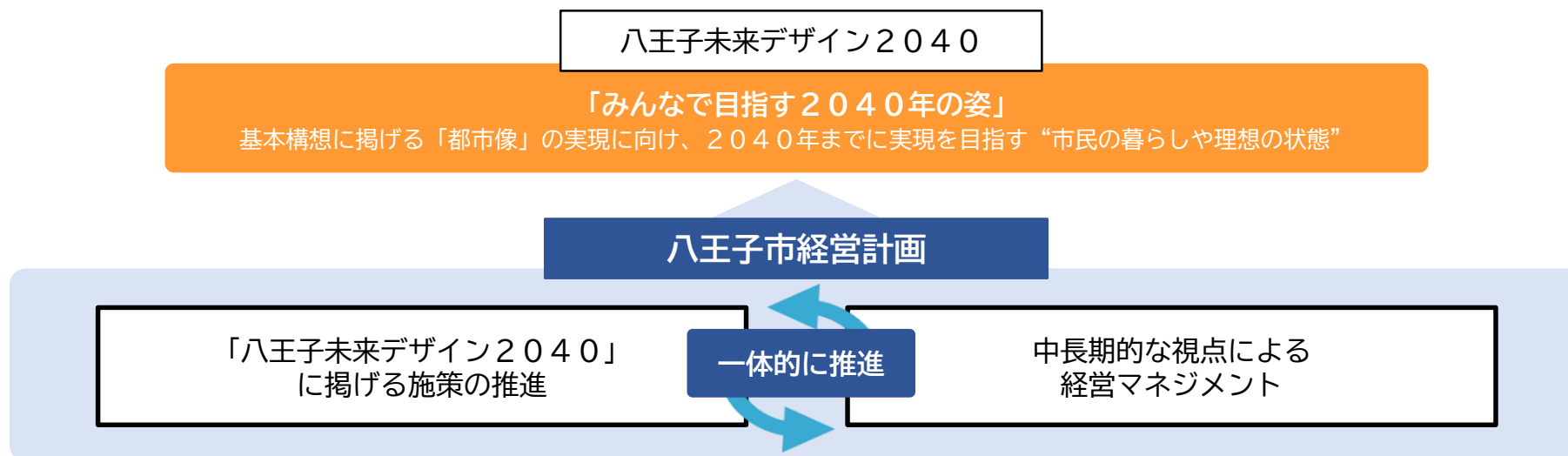
「八王子未来デザイン2040」の全体像



## 2 位置付けと計画期間

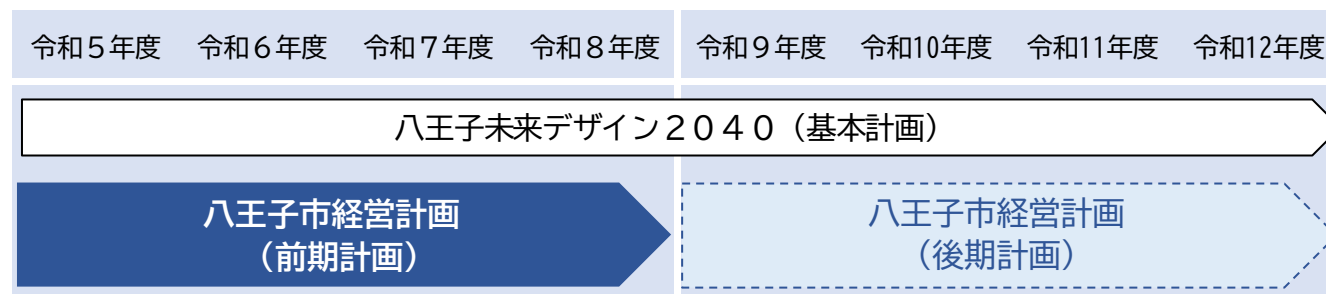
### (1) 位置付け

「八王子市経営計画」は、「八王子未来デザイン2040」に定める「みんなで目指す2040年の姿」の実現に向け、施策の効果・効率的な展開と、中長期的な視点による経営マネジメントを一体的に推進するための行動計画です。



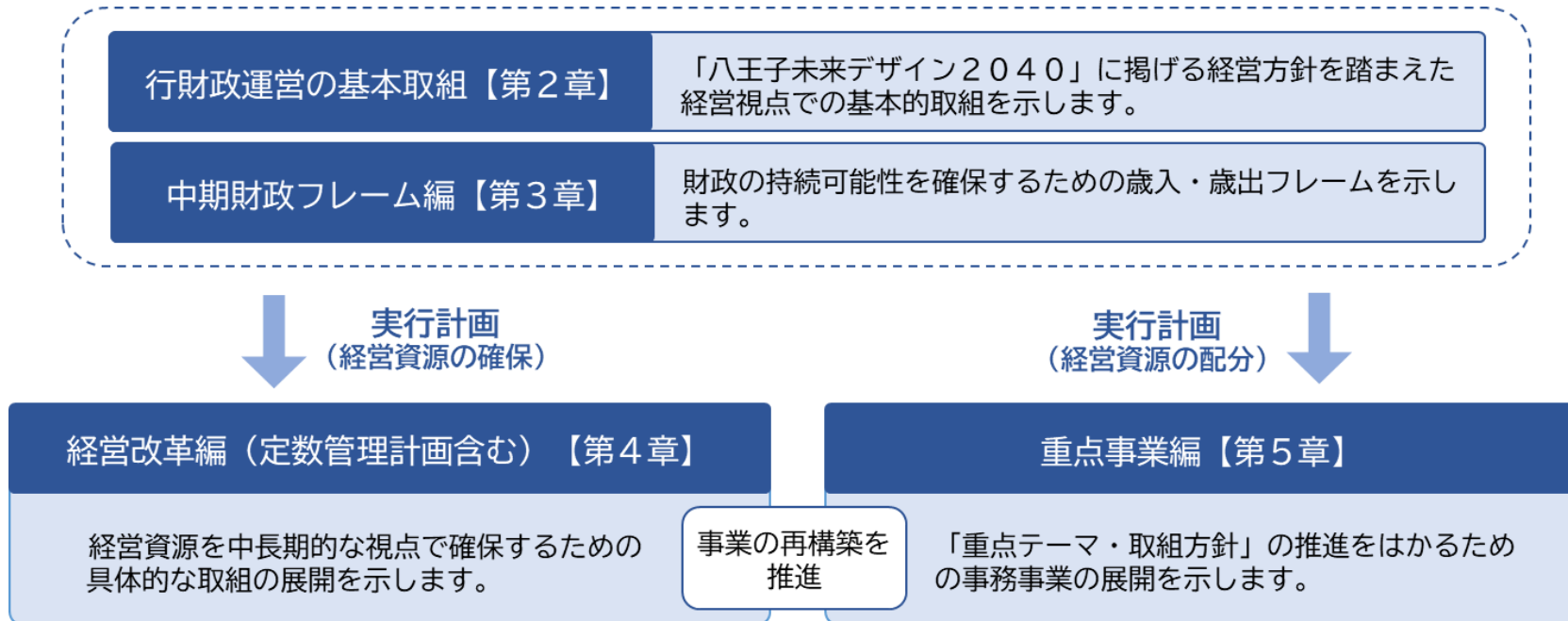
### (2) 計画期間

令和5年度（2023年度）から令和8年度（2026年度）までの4年間を前期の計画期間とします。



### 3 計画の構成

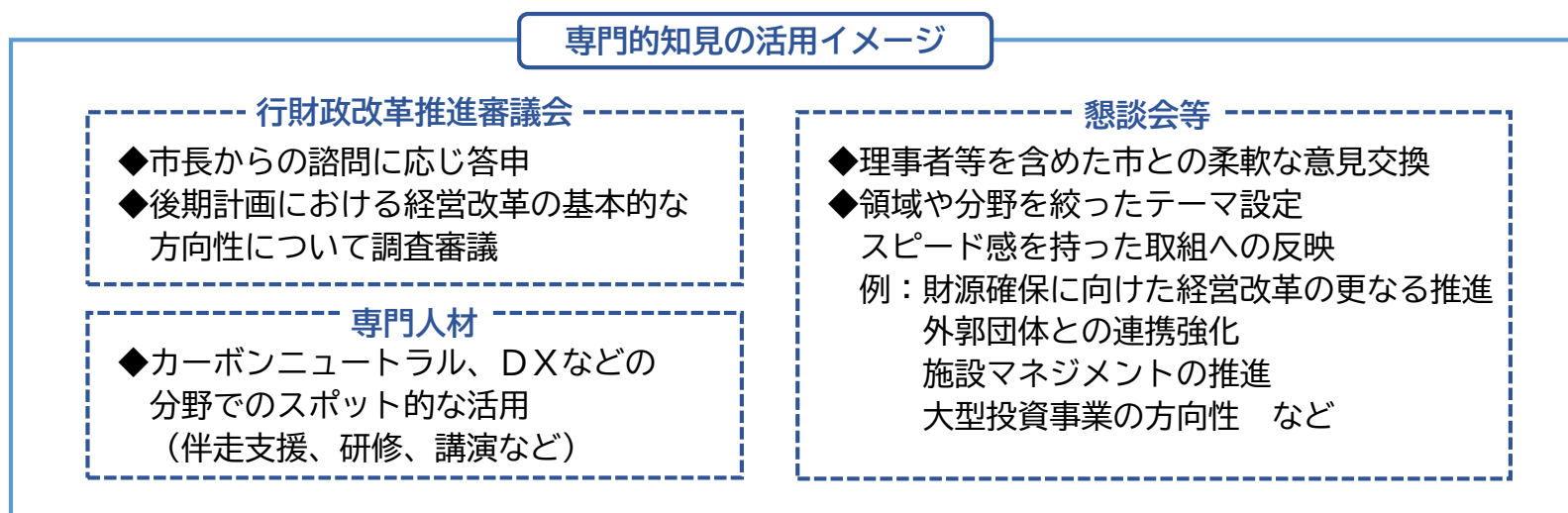
#### 八王子市経営計画



## 4 計画の推進

### (1) 専門的知見の活用

八王子市行財政改革推進審議会や懇談会等を活用し、社会・経済情勢や地方自治体が抱える課題を捉えた幅広い視点、既存の行政の考え方に捉われない柔軟な発想など、優れた専門的知見を外部から取り入れます。



### (2) 進行管理

「八王子未来デザイン2040」における細施策に設定した重要業績評価指標（KPI）と重点事業の評価指標を確認し、進捗状況と貢献度を評価することで、事業の方向性や優先度を検証し、毎年度の予算編成に反映していきます。

## 5 行財政運営を取り巻く現状と課題

### (1) 厳しい財政見通し

#### ア 財政を取り巻く現状

経済の低成長や人口減少・少子高齢化により、市税を中心とした一般財源収入の減少や社会保障費の更なる増加が予測されています。さらに、価値観の多様化や公共施設の老朽化により行政需要は増加しています。そのため、歳入・歳出の間に乖離（歳入・歳出ギャップ）が生じ、今後はより厳しい財政状況になると考えられます。

#### イ 今後の財政健全化の取組

歳入状況を見定めながら、新たな社会課題や行政需要に対し、経営資源をどのように配分するかが課題となっています。そこで、これまでの決算の推移を基に人口推計などを反映し、令和22年度(2040年度)までの財政見通しを作成しました。今後は、財政見通しを踏まえて、歳入・歳出ギャップの解消に計画的に取り組み、持続可能な財政運営を推進していきます。

#### ウ 財政見通しの推計方法

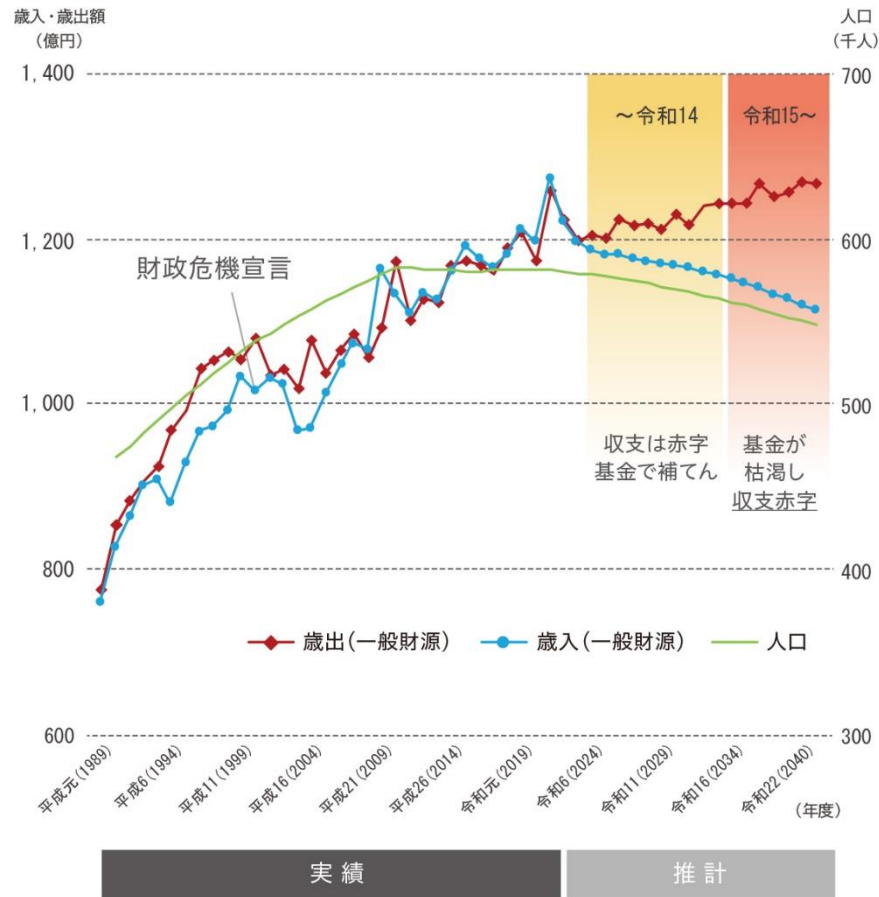
財政見通しは、決算や人口などの統計情報や、中長期保全計画など財政への影響が大きい項目を反映し作成しています。

- 人口 …… 人口ビジョン
- 歳入 市税・税外収入・地方交付税 …… 人口一人当たり単価を算出し人口推計と連動させ推計  
国都支出金・市債 …… 歳出と連動させ推計
- 歳出 人件費 …… 職員数を据え置き、年齢構成の変化を反映し推計  
扶助費・補助金等・繰出金 …… 人口一人当たり単価を算出し人口推計と連動させ推計  
投資的経費 …… 中長期保全計画・その他各事業の予定等をもとに推計  
物件費・維持補修費 …… 新規施設の運営費等を反映し推計  
公債費 …… 投資的経費に伴う市債の発行見込を反映し推計  
臨時財政対策債は制度が継続することを想定

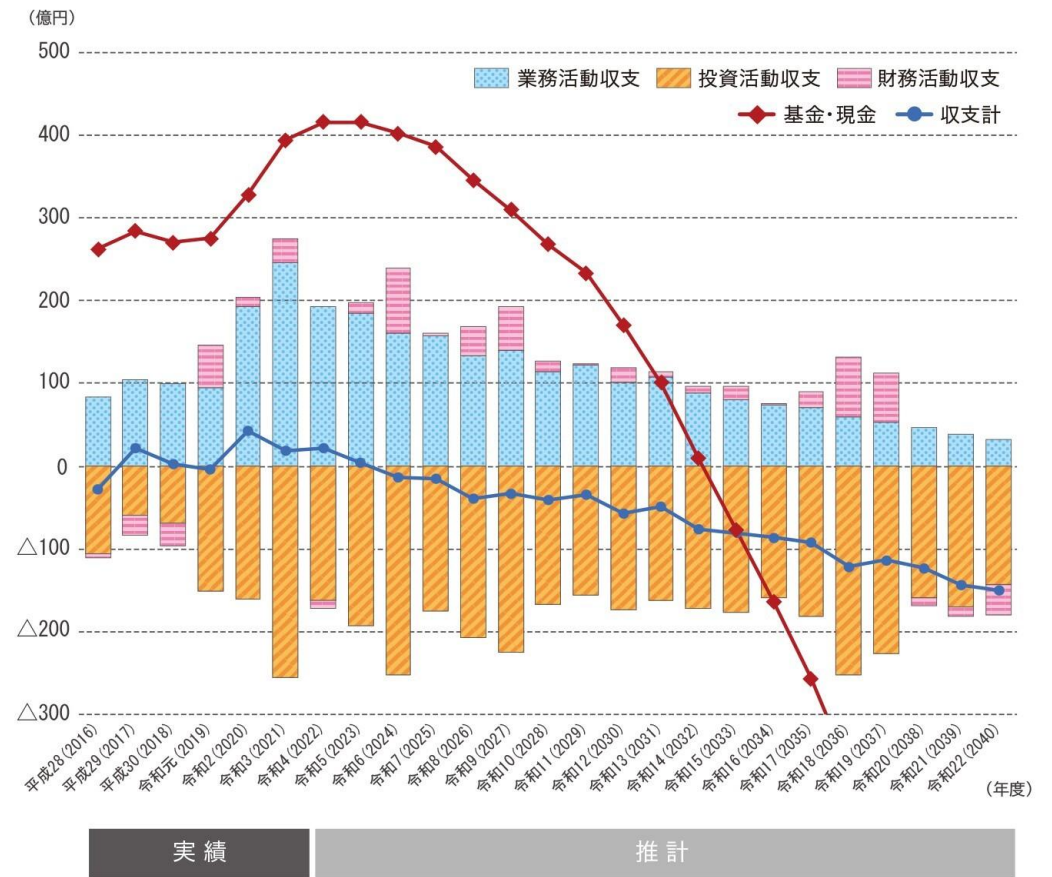
# 5 行財政運営を取り巻く現状と課題

## Ⅰ 財政見通し

<人口推計に基づく財政見通し（一般財源ベース）>



<基金・現金及び収支の内訳>



出典：「八王子未来デザイン2040」別冊（附属資料）

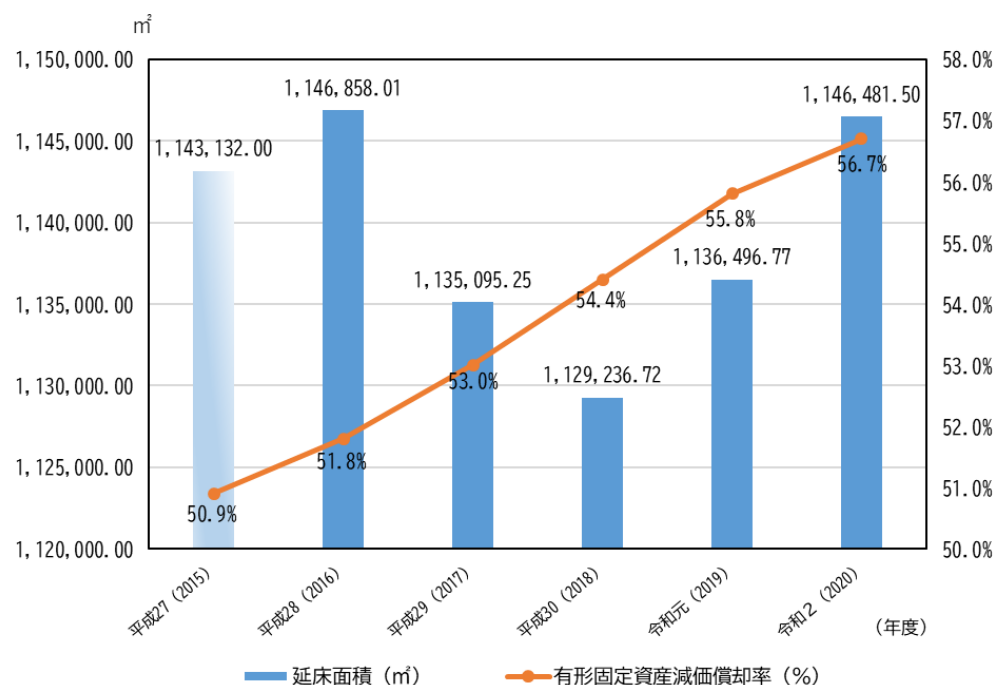


## 5 行財政運営を取り巻く現状と課題

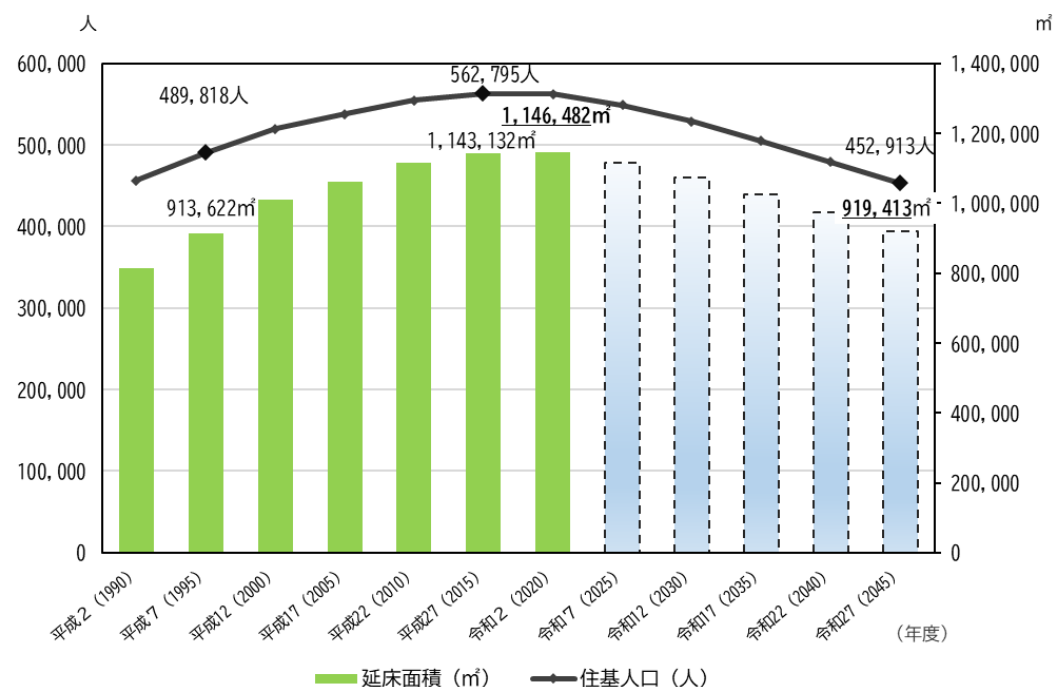
### (2) 公共施設の老朽化

- 本市が保有する公共施設の有形固定資産減価償却率は年々増加しています。全体の約63%の建物が築30年以上を経過しており、そのうち学校教育施設が約66%を占めています。
- 学校施設、道路、公園などの整備にかかる投資的経費の直近10年間の平均は約186億円で、歳出総額の約9%を占めています。また公共施設の維持に要する維持補修費の10年間の平均は約21億円となっています。
- 将来の人口減少を見据えた保有延床面積の縮減をすすめる必要があり、そのためには、少子化の影響を大きく受け、本市の保有延床面積の約60%を占める学校教育施設の再編が重要となります。

<保有延床面積と有形固定資産減価償却率の推移>



<人口減少に合わせた施設総量の適正化イメージ>



出典：「令和3年度(2021年度)八王子市公共施設等総合管理計画実績報告書」

## 5 行財政運営を取り巻く現状と課題

### (3) 人財の確保と育成

- 生産年齢人口の減少や公務員志望者の減少に伴い、人財獲得競争は激化しており、今後、職員の確保が困難になることが想定される中で、市政運営を支える職員を確保していく必要があります。
- 多様化・複合化する地域課題や新たな行政需要に対応するため、行財政運営のあり方や、職員に求められる役割が大きく変化しており、人財育成によって職員の能力を更に高めていく必要があります。
- 限られた職員で「八王子未来デザイン2040」を実現するためには、職員一人ひとりが、その能力を最大限発揮できるよう、働きやすく働きがいのある職場づくりが必要です。